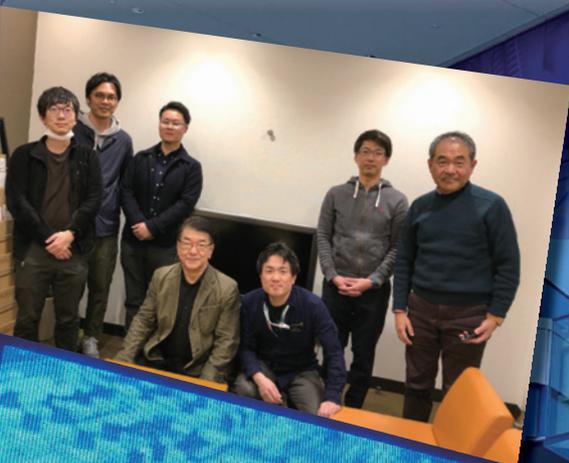


CONTENTS

● 第23回NAMMビジネスツアー報告	1~4
● 普及委員会 MIDI検定試験実施結果報告	5
● 著作権・ソフト委員会 楽譜利用に関するアンケート報告	6~7
● AMEI会員名簿・2020MIDI検定告知・新入会のお知らせ	8

第23回NAMMビジネスツアー AMEI/MMA会議報告



今年のNAMM SHOWは、2020年1月16日～1月19日の期間で、アナハイム・コンベンションセンターにて開催されました。NAMMの発表では、今回の入場登録者数は、115,888人と、前年(115,301人)を僅かながら上回り、総出展者数も昨年に引き続き2,000社を超え、過去最高を更新しました。会場もANAHEIM CONVENTION CENTER NorthHALLが出来てから3年目となり、音響機器やPA関連機器も、堅調に推移しており、2017年に発効された楽器を含む全てのローズウッド類の輸出規制について、2019年11月に楽器(楽器部品、付属品含む)の規制が緩和される等、明るい情報が伝えられ、トラブルも無く、MIDI規格委員会主催の第23回NAMMビジネスツアーも、今年も8名の参加を得て、NAMMショー及びMMA総会の日程に合わせ、1月15日出発～1月21日帰国のスケジュールにて、実施することができました。尚、今年度は事務局が脊柱間狭窄症による腰痛の為、杖がないと歩行困難となってしまうNAMMツアーに同行できず、参加者にはご苦労をお掛けし、申し訳ありませんでした。



NAMM2020ツアー報告

MIDI規格委員会 委員長 飛河 和生

MIDI規格委員会では、1月15日から1月21日にかけてNAMMツアー(会場：米国アナハイムコンベンションセンター)を今年も行い、一部のメンバーはAMEI/MMA間の国際会議やMMA総会にも参加しました。今回、腰痛のため事務局メンバーがアテンド出来なくなり、例年よりも自由行動中心のツアーとなりました。参加者は8名でしたが、日程管理やホテルチェックイン・アウトなどMIDI2.0部会のヤマハの三浦部会長に事務局代理として活躍して頂き、トラブルもなくNAMMツアーを終え、全員無事に帰国することができました。三浦さん、ありがとうございました。初日の夜はツアー成功を祈って、昨年同様、ダウントウン・ディズニーのSplitville Luxury Lanesという、食事とボーリング場が合体したレストランで夕食会を行いました。食事をしながらMIDI2.0規格制定による、将来の電子楽器の世界について語り合いました。普段は社内のメンバーと話す機会しかない方が多いと思いますが、同じ楽器業界の各社の方々と異国の地で食事をしながら意見交換できるのは、このツアーの大きなメリットだと思います。もっと多くの方々に参加頂ければと思います。

そして翌1月16日からNAMMショーがスタート。今年は例年よりも若い方々や女性の参加も増え、さらに活気があったように思います。会場の出入りゲートは建物の外の設置となり、建物の出入り口はノーチェックとなったため、異動しやすく、スムーズになりました。外に設置されたステージ近くではキッチンカーも多数出ていましたが、人がとても多いため、食事のための長蛇の列は相変わらずでした。今年もNAMM終了後の屋外ステージのメインアクトはタワーオブパワーでした。

MMAブースはMIDI2.0規格を大きくアピールしました。しかし残念ながらご報告となりますが、昨年、MMAのトム・ホワイト会長が急遽引退されました。このため、MMAの展示ブースの混乱が予想されましたが、出展企業がほぼ昨年と同じメンバーであったため、皆で協力しながら、無事に乗り切ることが出来ました。今年も日本企業のMMAブースへの出展は2社でした。会場では、終日さまざまなブースで開催される演奏セッションや、NAMM出展者同士の音楽コミュニティも魅力の一つです。MMA全体では、参加各社が様々な新商品、新技術を展示していました。近接するホテルでのセミナー会場では、2日間にわたり、MMA主催によるMIDI2.0規格概要の一般向けプレゼンが行われました。会場は超満員で、質問も活発に行われ、プレゼン会場は熱気に包まれていました。新たなMIDIの世界に対する世界中の方々からの大きな期待を肌で感じる事が出来ました。また、中国のミュージックチャイナでのMIDIプレゼンターをトムさんと一緒に務めさせていただいたこともあり、MMAと中国の業界団体であるCMIA間の会議に今回参加する事が出来たのも大きな収穫でした。中国のCMIAの方々もAMEIの活躍もよくご存じです。中国ではMIDI2.0に対する期待も非常に大きく、AMEIの普及活動や検定試験の進め方にも興味を示していました。

1月18日(土)朝8時から、毎年恒例のAMEIとMMA間でのオフィシャル・ミーティングが開かれ、制定間近のMIDI2.0規格の最終的なディスカッションが活発に行われました。その他にもMIDI検定の年間報告やトレードマークWG設立、IEC国際標準のMIDI規格のアップデート等についての報告を行いました。特に上野の国立科学博物館で開催したMIDI2.0のプレゼンに関して、歴史的な場所で開催されたことについて、MMAより大きな賞賛が寄せられました。

またMMAの暫定会長のGene Jolyさんのご紹介や、組織変更紹介が行われ、今後の協調体制についてAMEI側も組織対応を検討する必要があります。

次の写真はNAMM終了後に行ったAMEI/MMA合同の打上パーティの様子です。



NAMMビジネスツアー

NAMMビジネスツアー報告

ヤマハ株式会社 研究開発統括部 第2研究開発部 音響グループ 内田 勝也

私は初めてのNAMM参加でしたが、このツアーのおかげで手間取ることが少なく、情報収集や視察に集中することができました。基本的な移動・宿泊等をお任せできるだけでなく、NAMM期間中は自由行動とのことで、それぞれの専門性に合わせて視察することができる大変有難い形式のツアーでした。成田で集合してLAへ。空港からは現地の交通事情なども交えたガイド付でホテルまで移動しました。途中ファーマーズマーケットに寄って食事を取り、その後ギターセンターに連れて行っていただきました。昼食からアメリカらしいファストフードを味わえ、ギターセンターはアメリカにおける自社のプレゼンスを商品群ごとに確認できる良い機会となりました。夕食はAMEIのツアーメンバーとご一緒し、親睦を深めることができました。普段、社外の方々と接する機会が少ないので、これも有難い経験でした。

NAMMでは、その規模の大きさに圧倒されました。やはりギターの展示会としての色が強いですが、その他の楽器からPA機器・照明機材まで幅広く展示されており、見て回るのが大変でした。趣味がギターですので試奏する時間を確保しようと考え、あらかじめNAMMのアプリを活用して調査対象を絞っておいたことで時間を有効に使うことができました。

各ブースで様々なデモやライブが行われていましたが、そこで感じたのは音楽の多様化でした。アコースティックギターひとつとっても、MartinのブースではCEOのクリス・マーティンがクラシカルに爪弾き中、通路のイベントではナイロン弦のギターをバシバシと叩いたりしていました。アコースティックとエレキといった括りを越えて音楽が追求される世界の中で、自分達の立場を考えさせられる機会となりました。Fenderほどの老舗が昨年、「Acoustasonic」というエレキギターにトーンホールが付いたものを発表したことから

も、そうした流れを感じられます。NAMMでもそのストラタタイプの登場が大きな話題を呼んでおり、弾いてみると初めての感触に驚きました。日本にいたるだけでは触れられない音楽文化を肌で感じることができたことは、私の今後の仕事にも少なからず影響すると思っています。また、日によってはAMEIのメンバーと一緒に行動することができました。普段だと絶対に知り合うことができないIT関連企業の参加者とギターで意気投合し、お互いの聴き方・弾き方から各社のギターを評価しながら周ることができ、予想外の収穫がありました。NAMM期間中は基本的に自由でしたので、会場から離れて教会やコンサートホールに足を運ぶこともでき、総じて大変充実したアメリカ滞在になりました。このAMEIツアーは私の方にとって、安心して参加でき、大きな収穫を得ることができました。このツアーを企画していただいた方々、参加者の皆様に、この場を借りて感謝申し上げます。ありがとうございます。



はじめてのNAMMショー

今回私はAMEIの企画に参加し、初めてNAMMショーに行ってきました。昨年のAMEI企画のMusicChinaツアーにも参加し、そこで初めての国際的な楽器ショーを見たわけですが、歴史ある本家のNAMMショーはとても印象深いものでした。MusicChinaは規模的には引けを取らないものだったと思いますが、出展社をただ単に集めた展示会的なイメージが強かったのに対し、NAMMショーは音楽好きが集まるお祭りのような雰囲気を強く感じ、そこが何かこうたまらないいい感じを醸し出している感じがしました。

AMEIにも加入しているZOOM社の飯島社長は大学のサークルの先輩なのですが、前夜祭的なパーティーに呼んでくれて、そこでスティーブ・ガットのバンドの演奏を聴くことができました。サクスのトム・スコットの演奏が素晴らしく印象的でした。そこで出会った日本人の女性からNAMMショーアプリをダウンロードすると便利よと言われ、その場でダウンロードし、アプリが完備されていることに安心しました。ほかにもいろいろな会社が同じように前夜祭的なライブをやっているようで、ホテルのロビーでもやりましたし、もうそれだけでも楽しさ満開なノリでした。

翌日より展示会場を歩きました。初めてなのでとにかくまずは全体を回ろうと思ってしらみつぶ的に歩きましたが、音楽業界は楽器だけでなく照明とかPAとか舞台装置の分野でも多くの会社があり、そこでも技術革新している状況を実感したのは新鮮でした。野外を含め、そこらじゅうでライブ演奏を楽しくやっているのはBGMでした。その後は、私が個人的に興味のあるアコギにフォーカスを当てて見て回りました。マーティン、ギブソン、テイラーと、ビッグネームはありますし、マイナーブランドも盛りだくさんでした。そういったブースでも、気軽に弾かせてもらえる感があったのは、アメリカのりなのか自由な感じが好感

株式会社ストーンシステム 石黒 尚久

をもちました。アナハイムにはディズニーランドがあるわけですが、というか我々が宿泊したのがディズニーランドホテルだったわけですが、実は半日ディズニーランドにも行ってみました。同行してくれたY社の方と、ディズニーランドの音響の作り方について探索しました。(スターウォーズ・アトラクションも)

また夜の番外編として、同行のC社の方のお誘いでタクシーで遠出して、キース・エマーソンの追悼ライブ映画を見に行きました。映画出演者も来ており、貴重な体験でした。

それから今回のショーでAMEIにとって意義深かったのは、MIDI 2.0規格がこの時にFixしたということだと思います。ツアーの帰国前日にその祝賀会的な夕食会が催されたのですが、その末席に参加できたことは私にとって嬉しいことでした。

というわけで、NAMMショーは私に「楽器好きは年1回ここで顔合わせようぜ」というささやきをくれていた感じなのですが、状況が許せばぜひそうしたいですね、という思いです。



NAMMビジネスツアー

NAMM2020 ツアーに参加して

AMEI主催のNAMMツアーに、弊社からは、応用技術部の武田、基礎技術部から私の両名が参加しました。

昨年参加された方から、楽しかった旨を報告されていたので、私も武田もお互い初NAMM、初海外出張ということで不安もありましたが、とても楽しみにしていました。何より、自社の縛りなくNAMMショーに参加できるのが良いですね！また、航空会社は評判の高いシンガポール航空で、ホテルがディズニーランドホテルとなれば、旅もワクワクしますよね？

出発前の成田空港で、他のツアーメンバーとお話する機会も設けていただけました。お互い初対面同士でしたが、楽器関連のつながりということで不思議と違和感なく過ごせた気がします。その際、共通項である楽器の話で盛り上がっていましたが、それを見ていた空港職員の方が「なんかいいですね～、素敵なお仕事をされていますね。」というようなことを言われたことが、印象に残っています。普段仕事をしていると忘れがちになりますが、確かに楽器関連の仕事って素敵な仕事ですね。ツアーメンバーの方たちとは、初日のディズニーランドホテルで夕食を共にしたのもいい思い出です。その後は各々で自由行動ということで、私は現地スタッフとの打合せ、NAMM会場の視察、ハリウッドでの楽器店視察、MMAのMIDI2.0の会合に参加などを行いました。

NAMM会場では、注目の新製品を中心にブースをチェックしていきましたが、やはり勢いのある会社や、趣味性の強い会社などは、担当スタッフも明るくフレンドリーだったように思います。楽器のビジネスショー的な反面、お祭り感もあって、楽器ビジネスという特殊な業界を改めて認識したような気がします。

一方で、業界を牽引するような新しいテクノロジーの製品が出たという感じはなかったように思います。より便利にした、機能を追

ローランド株式会社 基礎技術部 中川 瑞紀

加した、再現性に拘ったという感じが多かったように思いますが、一部ではAI的な機能が搭載されたものも出てきました。私もお客様をワクワクさせるような製品を頑張って作っていかないと、と感じた次第です。

さて、実は今回のツアーで最も痛感させられたことがあります。それは、自分の英会話力の至らなさです。普段、会社で、たまに海外の方と接することはあるのですが、彼らが如何に手加減して、かつ行間を読んで話をしてくれてたかを理解しました。このNAMMの帰り以来、わずかながらではありますが、毎日英語の勉強をするようになりました。英会話力を向上させるキッカケを作るのにも、このツアーはオススメです。

最後に、AMEIスタッフと、ツアー参加者の皆様に改めてお礼申し上げます。ありがとうございました。



(NAMM会場の撮影スポットでの記念写真 左：中川、右：武田)

The NAMM Show 2020 出展

弊社は毎年参加しておりますが私個人としてはNAMM Show としてアメリカは初めての訪問となりました。以前から楽曲提供等の仕事をしており音楽に馴染みがありましたので入社早々（入社して5ヶ月！）あのNAMM Showに行けるということで、仕事の不安よりも期待感が勝っておりました。

そして初めてのNAMM Show、こんなにも活気のあるイベントとは思っていませんでした。日本国内でも楽器の展示会等には行ったことはありましたがそれとは比べものにならないほどの規模と人の入りで至る所で音が溢れ、音楽の本場というものを再認識させられました。

ギターやベースからサクソ、バイオリン、個人的に一番興味があったDTM関連の機材までどのブースでも人だかりができていたような状況でした。有名アーティストが色々なブースでデモンストレーションをやっているというのも見どころの一つですね。

さて、今回クリムゾンテクノロジーとしては以前出展したAI機械学習利用のボイスチェンジャー「リアチェンvoice」の進化版「Voidol VST版」を出展させていただきました。

VST版ということでDAW上でカラオケを流しながら4日間ほぼ歌いまくる、というなかなかない体験をさせていただきました。NAMM Showは基本的には楽器メインの展示が多いですが楽器ではない弊社ブースにも多くの方が訪れてくださり、期間中に三回来てくださった方もおりました。デモンストレーションで某ボーカリストの声が変わった瞬間などは皆さん様に驚いてくださりかなりの手応えがありました。音楽関連の製品だと言葉の壁もそれほど感じませんね。英語変換可能なボイスチェンジャーも試作していますので今後さらなる展開を考えていきたいです。

クリムゾンテクノロジー株式会社 田中 俊輔

展示以外の時間ではツアーの皆様にはとてもよくしてくださり、会場の食事等でも楽しく過ごさせていただきまして改めて感謝申し上げます。アメリカンなピザ、パスタ、ハンバーガーそしてビール、食べきれず持ち帰りにしたことも、、、

最終日にはMIDI2.0発表の会合にも参加させていただきました。もちろん日頃からMIDIは使っていますのでその中心に自分がいることなど一年前では想像もつきませんでした。

いずれは訪れたいと思っていたアメリカ、期間中特にトラブルもなく本当に実りのある訪問となりました。

AMEIの皆様にもこの場を借りてお礼を申し上げます。また機会があればぜひとも参加させていただきたいと思っています。



MIDI 検定試験実施結果報告

MIDI 検定指導研究委員会 上杉 尚史

令和元年度の MIDI 検定は昨年の微増から一転、全グレードにおいて若干の受験者減少が見られました。昨年まで行っていた積極的な広報活動を若干緩めたことも影響しているかもしれませんが、今一度受験者の獲得に向けて様々な施策を行わなければならないと感じております。

ただ、本年度は MIDI2.0 のプレスリリースもあり、昨年末に実施された電子楽器 100 年展における「MIDI の現在と未来がわかるセミナー」では多くの方にご参加いただいたほか、現在 MIDI 検定 1 級、2 級、3 級のガイドブックとして販売されている「ミュージッククリエイターハンドブック」の販売数も若干伸びていることなどから、MIDI 検定の受験者となりうる潜在ユーザー層にしっかりとアピールができれば、まだまだ受験者数を伸ばすことができるのではないかと感じております。特に、MIDI2.0 に関しては関心も高く、

MIDI 検定の中に効果的に反映させることで、MIDI2.0 の普及といった面でも相乗効果がでるのではないかと思います。

また、この記事を書いている現在、新型コロナウイルスの影響で外出を自粛する中、DTM をはじめとするパーソナルな音楽制作への注目度も上がってきているようですので、この流れもつかみながら検定制度の充実化を図りたいところです。

今後は、試験方法のオンライン化や指導者セミナーなどの WEB コンテンツ化も含めて、MIDI 検定事業全体のデジタル化をさらに進め、より多くの方に気軽に MIDI 検定を受けていただけるように模索をしていきたいと考えております。



MIDI検定試験結果の推移(国内)

		平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	累計
3級	実施日	第15回 2012 12/2	第16回 2013 12/1	第17回 2014 12/7	第18回 2015 12/6	第19回 2016 12/4	第20回 2017 12/3	第21回 2018 12/2	第22回 2019 12/1	
	受験者数	590	514	526	493	512	470	525	472	26392
	(内学校)	312	298	326	301	242	229	295	259	13315
	合格者数	339	261	271	308	378	297	276	303	17853
	合格率	57.46%	50.78%	51.52%	62.47%	73.83%	63.19%	52.57%	64.19%	67.65%
2級 1次	実施日	第14回 2012 12/2	第15回 2013 12/1	第16回 2014 12/7	第17回 2015 12/6	第18回 2016 12/4	第19回 2017 12/3	第20回 2018 12/2	第21回 2019 12/1	
	受験者数	134	124	117	143	139	182	138	118	6252
	合格者数	84	30	73	91	67	139	96	73	3161
	合格率	62.69%	24.19%	62.39%	63.64%	48.20%	76.37%	69.57%	61.86%	50.56%
	2級 2次	実施日	第14回 2013 2/16~17	第15回 2014 2/22~24	第16回 2015 2/21~23	第17回 2016 2/20~22	第18回 2017 2/18~20	第19回 2018 2/24~26	第20回 2019 2/16~18	第21回 2020 2/15~17
受験者数		74	45	78	92	65	88	71	52	3618
合格者数		41	21	33	62	39	47	43	30	1399
合格率		55.41%	46.67%	42.31%	67.39%	60.00%	53.41%	60.56%	57.69%	38.67%
1級		実施日	第4回 2012 8/10~20	第5回 2013 8/9~19	第6回 2014 8/8~18	第7回 2015 8/7~17	第8回 2016 8/12~22	第9回 2017 8/11~21	第10回 2018 8/10~20	第11回 2019 8/9~19
	受験者数	45	43	27	34	43	32	40	33	572
	合格者数	11	9	14	10	17	9	26	16	191
	合格率	24.44%	20.93%	51.85%	29.41%	39.53%	28.13%	65.00%	48.48%	33.39%
	国内受験者合計	843	726	748	762	759	772	774	675	36834

全国協力校・協力団体 試験会場

MIDI 検定 3 級及び 2 級 1 次試験の実施につきましては、下記の学校、団体に会場提供等のご協力を頂きました

【北海道・東北エリア】
クリプトン・フューチャー・メディア・エルム楽器札幌本店・学校法人 日本コンピュータ学園東北電子専門学校・あとり芸芸向上支援協会

【関東エリア】
横浜デジタルアーツ専門学校・国立音楽院・ヤマハミュージックジャパン・トート音楽院 渋谷・PLV 音楽院・PPC アートサロン・音楽学校 メーザー・ハウス

【中部・近畿エリア】
学校法人大阪創都学園 キャットミュージックカレッジ 専門学校・コンピューターミュージッククラブ Dee・トート音楽院梅田・専門学校 ESP エンタテインメント大阪・山本ピアノ教室・リュウケイ ミュージック ネット名古屋・名古屋文理大学・金沢科学技術専門学校

【中国・四国・九州エリア】
広島工業大学専門学校・広島コンピュータ専門学校・専門学校九州ビジュアルアーツ・鹿児島キャリアデザイン専門学校・日本文理大学

著作権・ソフト委員会の活動と「楽譜利用に関するアンケート」の意義

著作権・ソフト委員会 委員長 三澤 洋一

当協会は一般社団法人日本楽譜出版協会（JAMP）および協賛2社との共同で「楽譜の利用意向に関するアンケート」を2018年11月に実施しました。電子楽譜は音楽電子事業において重要なエレメントであり、音楽電子出版部会においてその著作権的解釈や仕様に関する検討を鋭意進めているところです。同時に、普及推進にあたっては楽譜ビジネス実態や

楽譜ユーザーの意識を知ることが肝要であり、このたび公開された約6万人の回答に基づく報告書は今後の活動に大いに役立つものと思います。また、音楽ビジネスの一端を知る上で、広く会員各社に有益と考えておりますので、ぜひご一読いただけますようお願い申し上げます。

「楽譜利用に関するアンケート報告書」結果について

音楽電子出版部会 部会長 榎谷 学

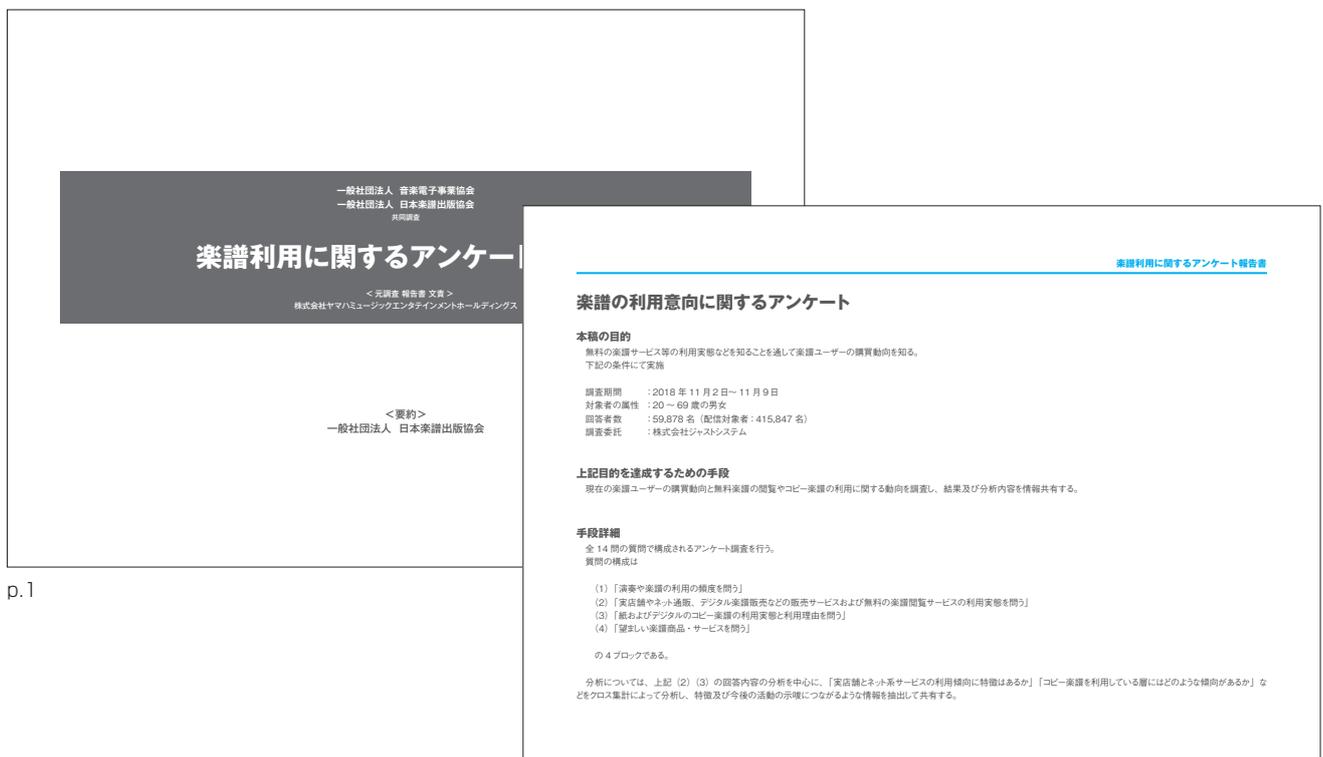
アンケートの実施に直接関わった当協会音楽電子出版部会の部会長として、この要約版の結果に関してご説明したいと思います。

このアンケートは、p. 2にもあるように、全体が4つのブロックで構成されていますが、「演奏や楽譜の利用の頻度」について問うた最初のブロック（同 p. 3）では、演奏の頻度が「ほぼ毎日」「週に2～3回程度」「月に2～3回程度」、つまり1ヶ月に複数回演奏する層が、回答者数全体の半数以上である51.8%にのぼることがわかります。また楽器演奏時に楽譜を利用する頻度の高い層は全体のほぼ8割、必ず利用する層に絞っても4割近くに達していることがわかりました。これらによって、自身で演奏を楽しむユーザー層の厚さや、演

奏と楽譜利用が極めて密接につながっていることが、明確に数字として見て取ることができます。

一方で、楽譜の販売サービスに関する質問（同 p. 4）では、紙楽譜購入に関して、実店舗、ネットショップにかかわらず回答者全体の半分以上は店舗から購入しておらず、デジタル楽譜購入に至っては購入経験のない層だけで6割を超える驚くべき結果となりました。ではユーザーは、いったいどこから楽譜を手に入れているのでしょうか。

続く「コピー楽譜の利用実態」（同 p. 5）でその答えの一端が垣間見えます。紙のコピー楽譜の利用経験者は回答者全体の7割に達し、うち1割は毎月利用していると回答しています。また、無料のデジタル楽譜閲覧サービスを利用したこと

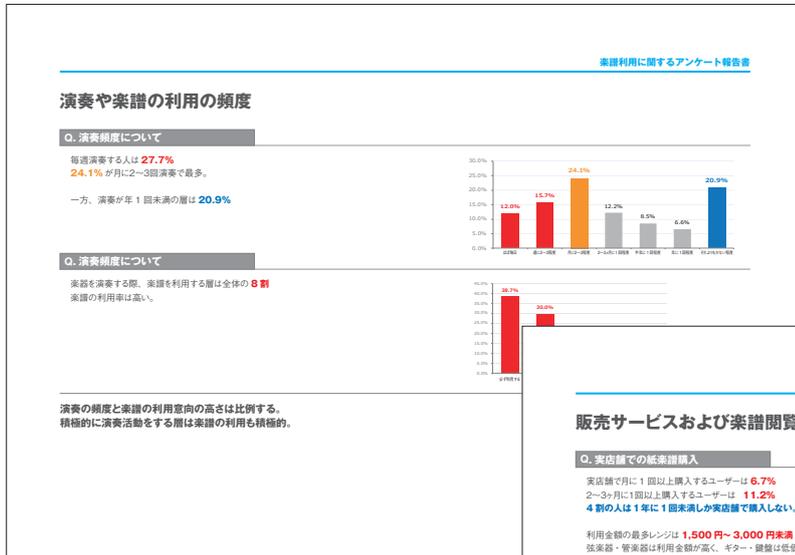


のある層も全体の7割に上ることも分かり、これらが楽譜業界の経済的損失につながっている可能性があるようです。

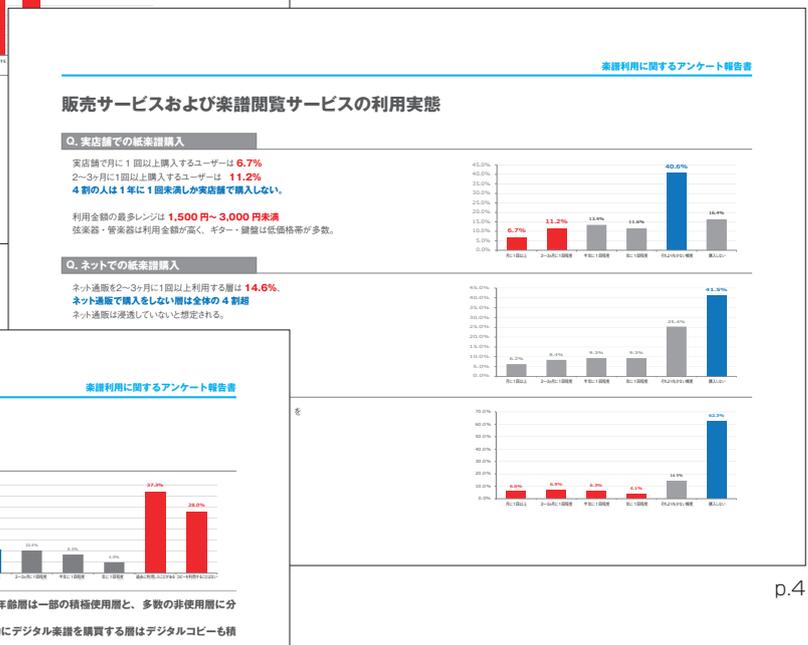
では損失の具体的な金額はどのくらいでしょうか。要約版のp.6ページにもあるように、紙(96億円)とデジタル(17億円)、合計で約113億円の機会損失が生じていると推計されています。一方アンケートでは、コピー楽譜を使う理由に「演奏仲間や教室から渡されたから」「欲しい楽譜が売っていない

から」と回答する例が多かったようですが、手軽に購入できるショップの整備や販売カタログの拡充といった、ユーザーの利便性やニーズに訴求した施策が、今後の有料楽譜の適切な利用の拡大につながるものと期待されます。

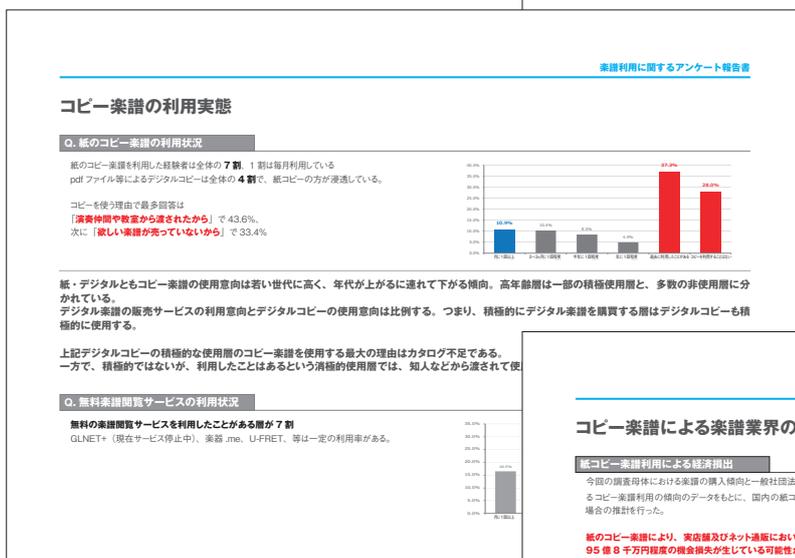
この要約版が、今後の楽譜ビジネス全体の発展に寄与することを願ってやみません。



p.3



p.4



p.5



p.6

楽譜利用に関するアンケート報告書につきましては、AMEIのHPでも公開しております。
<http://www.amei.or.jp/information/copyright20200205.pdf>

一日も早い新型コロナウイルス感染症の終息と、皆さまのご健康を心よりお祈り申し上げます。

会員名簿

50音順 2020年5月14日現在

あ	す	や
• AlphaTheta 株式会社	• 株式会社ズーム	• ヤマハ株式会社
• Apple Japan 合同会社	• 株式会社鈴木楽器製作所	• 株式会社ヤマハミュージックエンタテインメント
い	• 株式会社ストーンシステム	ホールディングス
• 株式会社インターネット	• 株式会社スリック	ゆ
え	た	• universe 株式会社
• 株式会社エクシング	• 株式会社第一興商	ろ
か	• 大日本印刷株式会社 出版イノベーション事業部	• ローランド株式会社
• カシオ計算機株式会社	て	〈正会員会社 27 社〉
• 株式会社河合楽器製作所	• ティアック株式会社	
く	と	* 賛助会員
• クリプトン・フューチャー・メディア株式会社	• 株式会社東京 MDE	• 中音公司 (中華人民共和国)
• クリムゾンテクノロジー株式会社	な	• 株式会社博秀工芸
こ	• 株式会社 nana music	• 株式会社ミュージックトレード社
• 株式会社コルグ	は	• 株式会社リットーミュージック
し	• パイオニア株式会社	〈賛助会員会社 4 社〉
• 株式会社シーミュージック	ふ	
• 学校法人尚美学園	• 株式会社フェイス	
• 株式会社シンクパワー		



大日本印刷株式会社
出版イノベーション事業部

新入会員のお知らせ

大日本印刷様が入会されました。
今後とも宜しくお願い致します。

MIDI2.0 規格書(英語版)ダウンロード開始

MIDI 2.0規格書は以下の5つの規格で構成されています。

1. MIDI 2.0規格概要
2. MIDI機器間ネゴシエーション(アップデート)
3. ユニバーサルMIDIパケットとMIDI 2.0プロトコル
4. プロファイルの共通規則
5. プロパティ・エクスチェンジの共通規則

CLICK



AMEI NEWS Vol.71 / 2020.5.25

一般社団法人音楽電子事業協会 機関誌

発行：一般社団法人音楽電子事業協会 事務局

〒101-0061

東京都千代田区神田三崎町 2-16-9 イトービル 4F

TEL.03-5226-8550 FAX.03-5226-8549

発行人：水野 滋

編集人：石黒士郎 (広報委員会)

編集協力：株式会社 博秀工芸

ホームページアドレス：

<http://www.amei.or.jp/>

